

青少年教育指導者等の養成及び資質向上事業

「第40期はなやまボランティアスクール」

1. 趣旨

全国28施設の国立青少年教育施設でボランティア活動が行える「法人ボランティア養成カリキュラム」において、ボランティア活動に必要な理論と技術についての実践的な研修を行い、ボランティア活動に積極的に取り組む意欲を高める。また、希望者はさらにスキルアップの機会を持ち、楽しく安全に活動を指導するために自然体験活動指導者（NEAL）リーダーの資格を取得できる。

2. 事業の概要

(1) 期日 令和元年5月25日（土）～5月26日（日）【1泊2日】

(2) 参加者

①参加対象 高校生以上のボランティア活動を志す方（一般成人・学生・高校生） 40名

②参加人数 56

		10代	20代	60代
男性	36名	13名	21名	2名
女性	31名	10名	21名	0名

【参加者の所属先】

- ・宮城学院女子大学 ・尚絅学院大学 ・仙台大学 ・東北学院大学 ・東北工業大学
- ・東北福祉大学 ・仙台総合ペット専門学校 ・仙台こども専門学校
- ・宮城県シニアリーダーサークルZEST ・宮城県教員 ・山形県教員

3. 企画運営のポイント

- ①ボランティアへの理解を促し、活動するボランティアを増やすため、講義の一部を利用した広報活動などで、高等学校や短期大学、大学等へ参加を積極的に呼びかけた。
- ②先輩ボランティアに企画運営を任せるコマを設ける等、身近なモデルとして活躍することでボランティアの役割のイメージを持たせ、今後のボランティア活動につながるようにした。

4. 日程 「法人ボランティア養成カリキュラム」科目名で記載

	5月25日（土）	5月26日（日）
午前	<開講式> 9:30 <説明Ⅰ> 9:50～10:50 「青少年教育施設におけるボランティア活動」 [担当] 国立花山青少年自然の家 職員 先輩ボランティア <講義Ⅰ> 11:00～12:30 「青少年教育」 [講師] 宮城教育大学 教授 田端健人 氏	<講義・演習Ⅱ> 9:00～12:00 「普通救命講習Ⅰ」 [講師] 栗原市消防本部警防課 職員 9名
午後	<講義Ⅱ> 13:30～15:00 「ボランティア活動の意義」 [講師] 宮城教育大学 教授 田端健人 氏 <講義Ⅲ> 15:10～16:10 「青少年教育施設の現状と運営」 [講師] 国立花山青少年自然の家 所長 山中 和之	<説明Ⅱ> 13:00～14:00 「登録制度について」 [担当] 国立花山青少年自然の家 職員 <閉講式> 14:20 「修了証授与」
夜	[講義・演習Ⅰ] 16:50～20:50 はなやまプログラム体験 「野外炊事～カレーコンテスト～」 [担当] 国立花山青少年自然の家 職員 先輩ボランティア	/

5. 主な活動内容



①説明Ⅰ「青少年教育施設におけるボランティア活動」



②講義Ⅱ「ボランティア活動の意義」



③演習Ⅰ「花山プログラム体験・野外炊事」



④講義・演習Ⅱ「普通救命講習Ⅰ」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：64% やや満足：31% やや不満：5% 不満：0%

(2) 参加者の声

- ・ボランティアに対する関心が高まった。
- ・良いリーダーとは何か。みんなのこれまでの経験から多様な意見を述べる議論をすることができた。
- ・初対面の人と価値観を共有し合うことができた。
- ・対話を通して、対話の進め方や発言権の確保等次の講義への準備も含めつつ、確実に1人ずつ話せる工夫があった。
- ・ボランティア活動に対して、何が必要であるべきかを考えることができた。
- ・青少年教育施設の存在意義について初めて知った。
- ・みんなで協力して行うことで、盛り上がりつつ真剣に取り組めたとし、他人のことを気を配ることもできた。
- ・AEDがどのくらい大切なことか、それでどれだけ多くの人を救うことができることを学びました。
- ・人命救助の大切さや、順番など、大変なところではあるが、大切なことを学んだ。
- ・知らない人との関わりが多く普段ない体験ができ、非常に良い経験となりました。
- ・普段体験できないことや、様々な人の意見・考えに触れることができたので、有意義な時間でした。

(3) 成果

- ・意欲の高い大学生を中心に、56名の参加で充実した活動ができた。
- ・青少年施設の現状や運営、仕組みについて学ぶことが出来た。

(4) 課題

- ・2次案内での往復路の交通手段についてwebフォームを使ったが、連絡がない学生が多数出たので、どれがよい方法なのか検討が必要である。

担当：企画指導専門職 安達 章美